

大坪和香子助教（動物資源化学分野）が、2020年11月30日～12月10日にweb開催で行われた第33回日本ウマ科学会年次大会・学術集会において、「同所飼育環境下のウマにおける腸内常在細菌の個体間伝播」という演題で発表を行い、最優秀発表賞を受賞しました。拠点校であるオランダ Wageningen 大学と共同で実施した本研究では、日本とオランダの5施設で管理されているウマの腸内フローラを比較解析し、同じ施設のウマ個体同士が同じタイプの腸内常在細菌を共有していることを明らかにしました。この腸内細菌の「個体間伝搬」は、これまでに同居環境にあるマウスや魚、ヒトなどで報告されていますが、本研究は、1頭1頭が個別に管理されているウマにおいても、この現象が起こっていることを示唆しています。今後国際共同研究体制を強化し、動物行動学と腸内細菌学の両方向から個体間伝搬が起こるメカニズムの解明を目指します。

日本ウマ科学会は、畜産学・獣医学だけではなく、基礎・応用、人文系・理系を問わず、ウマの科学に興味を持つ研究者と実務者が意見を交換する学術や技術の向上と普及を促進することを趣旨の下に1990年に設立されました。 参照 URL <http://jses.equinst.go.jp/contents/page.php?id=427>



「最優秀発表賞」の盾



共同研究者の J. Eikelboom 研究員